



卒業式の学校長式辞

「よい人生を送るには、どうすればいいでしょうか。」

この問いは短いですが、内容はとても大きな問いです。

まず「よい人生」だと決めるのは誰でしょうか。

たとえば、私は55歳ですが、私の人生がよかったかどうか、自分で考えると、まだ結論を出せません。この先とんでもなく悪い人生になるかもしれないからです。つまり、私の人生は、私が人生を終えてしまわなければ、全体の結論は出せないのです。

では、私が人生を終えたら結論が出せるのでしょうか。その時には私はもういませんから、よい人生だったかどうか決められるのは、私ではない、生きている誰かです。

私の人生がよい人生だったかを決めるのは、私以外の人、自分のすべてを知っているわけでもない自分以外の人、それも変ですね。

どうやら、人生全体がよい人生だったかどうかを、自分では決められないし、だれも決められないようです。

実は、自分で決められるのは、「どう生きたか」ではなく、「どう生きるか」、それだけです。それをわかってほしいのです。

どう生きれば、「よい人生だな」と思えるのでしょうか。

私はというと、日頃、仕事や勉強など必要なこと、やらなければならないことをやり、時間があれば本を読んだり登山をしたり、つまり、好きなことをします。私は、好きなことをしているときは無心になります。

夢中になって山の中を歩き、危険な場所にさしかかると、無心になって越えていこうとします。そんなときは、それまで感じなかったものを感じるがあります。よい人生を送ろうなんて考えるひまはなく、目の前のやるべきことに没頭します。

いつもとは言いません。時々、無心になれる好きなことができたなら、「よい人生だな」と思えるのではないかと、私はそう思っています。

ぜひ、この先の人生で、無心になれる好きなことを見つけてください。

保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。中学校三年間は、心も体も成長する中で、心配の尽きない日々を送られたことと思います。また、一方では子どもを信じていらっしやっただと思います。その心配と信頼からくる保護者の皆様からの励ましに子どもたちは応え、こんなに大きく成長しました。三年間、本校教育に対し、ご理解いただき、ご協力ご尽力いただきましたことに、深く感謝申し上げます。誠に、ありがとうございました。

自分で決められるのは、「どう生きるか」、それだけです。みなさんが「よい人生」を送ってくれることを心から祈っています。

ご卒業おめでとうございます。